



細胞小器官 疾患学分野

細胞小器官の 未知なる機能を探る

我々の体をつくっている細胞(真核細胞)は、多種多様な細胞小器官(オルガネラ)をもっています。細胞小器官は細胞の臓器のようなもので、それぞれが固有の役割を果たすことで細胞の活動に貢献しています。本分野では、細胞小器官を構成している新規因子を同定し、細胞小器官の新しい機能を解明する研究を行っています。これらの研究成果は、細胞小器官の機能や連携の破綻に起因する病気(がん・自己炎症性疾患など)の治療手段の開発に活用していきます。

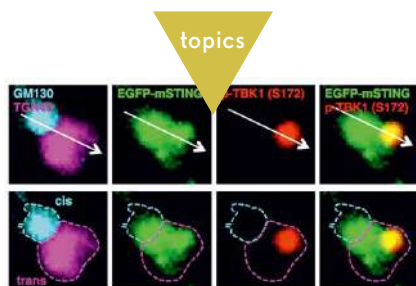


Lab. DATA

細胞小器官、シグナル伝達、自然免疫

田口友彦 教授

<https://www.lifesci.tohoku.ac.jp/research/fields/laboratory.html?id=45407>



ゴルジ体のトランス領域(紫)が、自然免疫シグナル(pTBK1:赤)の発生日点として機能していることを明らかにしました。自己炎症性疾患の治療につながることを期待される成果です。

在学生

Interview



修士2年
進藤 瑠璃

私たちの細胞は、体に侵入してきたウイルスやがん細胞を異物として認識し、それらを駆逐する自然免疫という仕組みを持っています。細胞質に出現したDNAは異物として認識されますが、私はその鍵となるタンパク質cGASに興味を持ち、cGASの活性制御機構についての研究を行っています。